

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175700319		
法人名	空知パブリックメンテナンス株式会社		
事業所名	グループホーム まごころ 1号館		
所在地	〒068-0115 岩見沢市栗沢町最上293-1		
自己評価作成日	平成24年10月19日	評価結果市町村受理日	平成24年12月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、広い畑と深緑の木々に囲まれた自然豊かな環境に立地している。建物内部は広い造りになっており、季節感のある飾り付けを利用者と共に作成し、より明るく家庭的な雰囲気を有している。職員は利用者の思いや意向を大切にし、穏やかな対応を心掛けている。又、職員は毎月手書きの近況報告書を家族に送付したり電話にて連絡する等、家族と密なる関係作り努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaizokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JizyosyoCd=0175700319-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成24年11月20日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営者は異業種でありながら、地域の高齢者が地元で安心して暮らせるための環境作りに熱意を持ち、地域貢献の一環として平成15年にこの事業所を開設している。さらに、この経験と信頼を基に2事業所を開設しており、家族の深い理解と協力を得ている。広大な敷地の中に当事業所は有り、利用者は四季折々の美しさを感じながら、菜園作りや花壇作りを楽しみ、閉じこもらない暮らしを満喫している。正に理念である「ありのままに、ゆとりとやすらぎのある暮らし」を利用者と職員が一体となって実践している。運営者との協働体制の中で、職員の育成や資格取得に向けての外部研修参加を促し、管理者、職員はともにケアサービスの質の向上に努め、利用者本位のより良い暮らしの実現に向け取り組んでいる。家族とは、訪問時や電話での会話のほかに、毎月発行の「まごころ通信」に加え、個別に利用者の暮らし振りを書いた手紙も送り、安心と信頼関係がしっかりと築かれている。地域との関わりも開設から15年目に入り、運営推進会議への住民参加を軸として、新年会やお花見などの町内会行事に利用者に参加したり、事業所主催の運動会や避難訓練に地域住民の参加協力を得るなど、互いに支え合う双方向の交流が長年培われている。また、保育園児との交流やボランティアの受け入れ、中・高の学生の体験学習受け入れにも積極的に取り組むなど、幅広く交流を図り、多くの人達と触れ合う機会を作っている。利用者は、玄関前に設置したサンルームでの日向ぼっこや中庭でのティータイム、菜園で収穫した野菜を食卓で楽しんでいる。管理者、職員は、利用者の笑顔のある豊かな暮らしの継続に努め、支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時、理念を大きな声で読み上げ、職員間で意識付けし、新たに理念に沿った支援を出来るよう努めている。又、日々のサービスに反映されているかどうか話し合っている。	「ありのままに、ゆとりとやすらぎのある暮らし」を基本理念に掲げ、介護理念も作り上げている。職員は毎朝の申し送りの際に唱和しながら、常に理念を身近に捉えており、日々のケアサービスの実践に向けて共有が図られている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新年会・花見等、町内の行事に参加している。又、当ホームの行事等に参加を呼び掛け、出席して頂いている。	町内会の諸行事には利用者とともに参加し、事業所主催の運動会や避難訓練には地域住民の参加協力を頂くなど、双方向の関係を築いている。保育園児のお遊戯披露やボランティアの受け入れ、中・高学生の体験学習にも積極的に取り組み交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学や、実習生を受け入れている。又、町内会には認知症に対する理解や接し方等、「まごころ通信」を配布し、啓発に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的(年6回)に、運営推進委員会を開催しており、事業所の運営方針、現在、取り組んでいる事を報告し、質問や意見・要望を受け、サービスの向上に努めている。	会議には、行政職員、町内会役員、利用者、家族、民生委員の参加を得て、2ヶ月毎に開催している。事業所の運営や利用者の状況を報告し、情報交換を行っているが、参加者からの意見、要望を引き出せず、双方向的な会議には至っていない。	事業所がより豊かに機能するために、会議内容を検討し、活発な意見交換の場となる様な工夫が望まれる。更に、会議内容の記録整備に努め、議事録の掲示(事業所内など)や全家族への配布など、公表に努めることを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会に出席して頂き、事業所の実情や、現在取り組んでいる事を報告し、情報やアドバイスを頂いている。又、解らない事など質問し、回答を得ている。	市の介護保険課とは、介護申請や後見人制度利用及び、生保に関する相談、報告を行い協働が図られている。グループホーム連絡協議会にも参加し、情報の共有や問題解決の協議に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束をしないケアを理解し、実践している。「なぜ、その様な行動に走るのか」職員間で話し合い、自由な暮らしが出来るように、見守りを強化している。利用者が外に出て行く時は、無理に引きとめず付き添い見守りしている。	外部研修や内部研修にて、身体拘束の内容と弊害を学び、職員は利用者が引き起こす症状の原因を徹底的に紐解き、拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は開錠しており、外出傾向のある利用者の見守りを強化し、抑圧感の無い自由な暮らしを支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止等の研修会に積極的に参加し、スタッフ会議で話し合い、周知徹底している。又、日勤で仕事をカバーし、夜勤等の一人勤務での負担を少なくしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等に参加し、その内容を活用出来るよう話し合っている。現在、当グループには成年後見制度を利用している方が1名いる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者と家族側の立場になり、書面と口頭で解りやすく説明し、わからない事や不安に思う事等丁寧に聞き、安心して生活出来る事を、理解納得して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のお便り・通信等で日頃の様子を報告し、来所された時には、気兼ねなくお話出来る良い関係づくりに留意している。	運営推進会議や来訪時、電話連絡の際に、家族から意見・要望を引き出せるように、雰囲気作りに努めている。毎月発行の「まごころ通信」に個別の手紙も添えて事業所での暮らし振りを報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の中で、意見・要望を聞きアイデアをどんどん取り入れ、ケアに生かしている。	管理者は、日々の申し送りや月1度のスタッフ会議などを通して、職員の意見や提案を積極的に受け止め、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働基準法に添って、労働条件を整えており、勤続年数・資格取得によって昇給もある。職員の疲労やストレスに気を配り、些細なことでも相談出来るよう、日頃よりコミュニケーションに心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に出来る限り参加出来るよう配慮している。又、全職員が共有出来るようスタッフ会議などで、研修内容を報告している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当事業所の3グループで合同の行事を行ったり、地域のグループホーム協会に加入して勉強会・講演会に参加し、情報交換等行いながら、サービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で今までの生活状況・心身の状態・本人が困っている事等を把握し、安心して生活が出来るよう、信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族と本人の状況・家族の不安・要望に耳を傾け、どのような支援を望んでいるのかを把握し、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所希望の方には本人・家族と見学に来て頂き、本人の状況・何を希望し・何を不安に思っているのかを聞き、出来る限りサービスに取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の立場になって不安・喜び・苦しみを共感し、本人らしいありのままの暮らし・生き方の実現に向け、共に支え合える関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月お便り等で生活の様子をお知らせし、来訪時にはその都度近況を伝え、家族からの意見等を伺い、情報の共有を図り、協力関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの知人・友人が訪問されたり、病院受診や買い物・散歩等で顔見知りの方と会ったりすると、楽しく会話がはずみ馴染みの関係が途切れない様に心掛けている。	知人、友人や住職の益参りの来訪時には、お茶や菓子を振る舞い対応している。外出行事の折に、利用者の自宅付近を通り訪問したり、馴染みの店での買い物や、通院、散歩時に知り合いと会話を楽しむなど、継続的交流を保つ支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶の時間や食事の時は職員も一緒に席に着き、利用者同士が円滑にコミュニケーションが取れるように支援している。又、レクリエーション等も孤立しないように職員が調整役となっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移る時は今までの生活が継続できるように情報を提供し、退所後の家族の電話等は受けて、相談や支援に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の係わりの中でその人らしい生き方・考え方を把握し、困難な場合は家族から情報を得たり、会議で検討している。	生活暦、職歴や家族からの情報を基に、アセスメントを行い、日々の関わりの中から、利用者の思いや意向の把握に努めている。レクリエーションも希望や得意分野の種目を選ぶなど、柔軟に対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に、これまでの生活歴や生活の様子を伝えてもらったり、今までケアに係わった方々(ケアマネ・市職員等)から話を聞いている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活のリズムを把握し、毎朝のバイタルチェックにより、その日の体調や心理状態を見極め、いま出来ること、得意分野で自信が持てること等をして頂いている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見や要望を取り入れ、利用者主体の暮らしを重視し、アセスメントを行い介護計画を作成している。4カ月毎にモニタリングを行い、サービスの見直しを行っている。変化時は随時見直しをしている。	利用者担当職員は、月1度のモニタリングとカンファレンスを基に、管理者会議にて話しあい、情報を共有し、職員の気付きや意見を加え、利用者、家族の要望を反映した介護計画を作成している。4ヶ月毎に見直され、緊急時には随時見直している。	日々の介護記録が時系列の記録に止まっており、介護計画に連動した記録の取り方には至っていないので、早い時期に整備検討し、ケアプランが活かされた介護記録を作成し、ケアサービスの質の向上に結びつける事を期待したい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに1日の生活の流れ、様子を細かくチェックし、利用者の状況や気づいた事を記録して、ケアや介護計画に役立てている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、買物・病院受診送迎、入院時の衣類の洗濯等必要な支援を柔軟に対応している。又、訪問理容・歯科往診等利用している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域で生活出来るように、市職員・民生委員・警察・消防等協力して頂いている。又、ボランティアの方に余興をおねがいしたり、近所の公園に散歩に出かけたりしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する掛かり付け医に受診しているが、家族が対応出来ない時は職員が送迎し、結果を家族に報告している。	かかりつけ医への受診及び協力医への月1回の定期受診は、ほとんど事業所職員が介助支援に努めており、受診結果を家族に報告し、情報の共有を図っている。看護師が常勤し、日々適切な健康管理が行われ、家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常駐しているので情報や気づきの中から相談し、指示を受け、看護や受診に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護添書にて情報を医療機関に提出し、病院関係者と連絡をとり、家族共有の情報交換を行い、回復状況等退院支援に結び付けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所が対応出来る最大の支援を入居時家族に説明し、了承してもらっている。	今回、重度化に向けての対応指針が明文化され、現時点で入居されている利用者及び家族に向けてこの内容を説明し、同意書作成に向け話し合いの場を設ける予定である。事業所として、できる限りの支援を行うように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ全員で急変に備えて話し合い、消防訓練や応急手当の講習等で対応出来るようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の協力を得て避難訓練・避難経路の確保、消火器の使い方等を実践している。又、町内会にも協力を得ている	消防署指導の下に、6月と10月に昼夜を想定した避難訓練を地域住民の参加協力を得て行っている。スプリンクラーや火災自動通報装置も設置され、避難場所も確保している。	今までの訓練に加えて、地震、季節ごとの様々な自然災害や緊急事態に向けての避難訓練の実施と非常用備蓄品についての検討を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なわない言葉かけや対応をしている	言葉使い・視線を合わせた会話・声のトーン・利用者の誇り・プライバシーを損なわないように常に心掛け、職員間で話し合っている。	利用者の意志と尊厳を大切に、誇りを損なわない支援に努めている。不適切な言葉かけや対応に直面した場合は、職員同士で指導し注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりのペースに合わせ、ありのままの生活が実現出来るように心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れのリズムの中で、その日の本人の体調や希望に沿った、その人らしい暮らしに心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向に沿って着替えしている。行事の時等はお化粧をする等、おしゃれを楽しんでいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に合わせて、食事の準備や後片付け等行っている。職員は利用者と一緒に会話を楽しみながら、ゆったりと食事をしている。又、裏の畑で採れる新鮮な野菜も利用している。	利用者の嗜好を考慮し献立を組み、畑で収穫した野菜や、旬の食材を取り入れ季節を味わう支援をしている。食事の準備も利用者の力量にあわせて行い、外食や行事食でも楽しめる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量・食事を毎回チェックし、1日の必要量が確保されていない方にはその都度、好みに合わせた食べ物・飲み物・摂取しやすい物を提供し、栄養バランスに留意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後、口腔ケアの声掛け・見守り・介助等で清潔保持に努めている。又、食事時の口腔体操で嚥下機能低下・誤嚥性肺炎の予防に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状況を把握し、さりげない声掛けを行い、トイレ誘導をしている。失禁する方も、日中は綿パンツにパット程度にしている。	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握した上で尊厳に配慮しながら、さりげなくトイレ誘導を行い、自立に向け支援している。パットなどが必要な場合も、利用者の状態にあった種類を検討し、日中は布パンツ使用の取り組みに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックを行い、便秘がちの方には牛乳等の補充をし、最終的には下剤・座薬を使用している。又、毎日体操・散歩等取り入れ、便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2ユニット有る為、曜日は決まっているが、一人ひとりゆっくり、スタッフと会話しながら、入浴を楽しんでいる。シャワー浴は自由にできる。	週2回、入浴日を設定しているが、利用者の希望や状況により柔軟に対応している。入浴拒否の場合は、無理強いせず、声かけの工夫やタイミングを計り、上手に誘導している。シャワー浴は毎日利用することができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居間のソファ・居室のベット等、生活リズムに合わせて休息している。夜間安眠出来ない利用者に対しては、話を聞き安心感が得られるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の内容を把握出来るように、個別ファイルを作成し分包している。処方の変更になった時は申し送りに記入し通知している。服薬時は確認して本人に手渡し、飲み忘れがないかチェックしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を知り、得意分野での役割を発揮出来るよう支援している。又、散歩・外出等で気分転換の支援をしている。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に沿って買物やドライブ・外出に出かけ、季節の変化を実感して頂くために、花見や紅葉見学も行事のひとつとして実践している。遠出の場合はトイレ設備や車椅子の対応等確認し、支援している。	自然に囲まれた事業所では毎日の散歩は勿論、畑や花壇の手入れ、夏にはテントを張りティータイムを楽しむなど戸外で過ごす機会を作っている。季節行事の桜見物やあやめ公園散策、紅葉狩り、空港見学、外出などに加え、個別の要望での買い物など、多くの外出支援に取り組んでいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持してる利用者は僅かだが、自販機でジュース等を買ったりしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置し、利用者の希望で自由に使用でき、電話の時は職員が取り次ぎ自由に話されている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂やロビーには、職員と利用者が共同で作った物や写真等を飾り付け、玄関フードにはベンチが置かれ日光浴を楽しんでいる。又、今年エアコンが付き、暑い夏も快適に過ごされた。	玄関入り口前はフードが設置されサンルームになっており日向ぼっこには最適な空間である。玄関から広がる共有空間も広々として、季節の飾り付けが施され、リビングもゆったりと明るく食卓テーブルにソファが配置され、更に畳スペースを用意し、利用者がそれぞれ好みに寛げるような工夫が伺える。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前には皆でくつろげるソファがあり、ホールには談話したり、一人で過ごせる椅子とテーブルが用意されている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や仏壇・写真等が飾られていて、利用者が居心地良く暮らせるようにしている。	各居室には、トイレ、流し台、物入れ、テレビが設置されている。利用者は家族と相談しながら、使い慣れた家具や鏡台、仏壇、生活必需品などを持ち込み、居心地良く過ごせる工夫をしている。家族写真や絵なども飾り、利用者の個性を引き出している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、廊下・居間・トイレ・浴室など手摺が付いている。又、居室のドアには目印を付けたり、利用者の現状に合わせた環境整備に努めている。			